令和７年度豊かなむらづくり顕彰事業　実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動を通して地域活性化に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農林水産業・農山漁村の活性化等に寄与することを目的に、関係機関・団体の御支援をいただきながら昭和５６年より実施しており、本年度で４４回目を迎えました。

今回を含め、「むらづくり部門」で１８８団体、「農業生産部門」で１１２団体の合わせて３００団体が、本県における「むらづくり」の模範的な団体として受賞されています。

内　　容	時　　期
事業募集期間	令和７年４月３０日（水）～７月３１日（木）
現地調査	令和７年８月２７日（水）～９月１２日（金） うち４日間
予備審査会	令和７年１０月２７日（月）１４：００～１５：３０ ところ：福島県自治会館５階　５０６会議室
本審査会	令和７年１１月２０日（木）１０：００～１１：３０ ところ：福島県自治会館５階　５０６会議室
表彰式	令和８年２月３日（火）１３：３０～１４：３０ ところ：杉妻会館３階　百合の間

令和７年度豊かなむらづくり顕彰事業　審査講評

農業者の高齢化、担い手不足が進み、農業・農村の持続的発展が大きな課題となる中、いずれの団体も農業を核に、地域の資源を生かして課題の解決を図ろうと取り組んでいると認められます。

「むらづくり部門」に推薦のあった飯坂温泉地酒をつくる会（福島市）は、観光地でもある特性を生かし、遊休化が懸念される水田を活用して酒米を生産し、オリジナルの地酒をつくり、旅館での提供を始め、米づくりなどの機会を通して子どもや外国人等との交流を進めています。布沢集落（二本松市）は、農地や農道の保全、機械共同利用組合の農作業受託による農業生産の維持に取り組むとともに、棚田を資源として活用し、「田んぼの学校」や棚田オーナー制度、芸術祭の開催等により都市住民との交流を拡大するなど、集落ぐるみでむらづくり活動を展開しています。ファームパークいわえ運営委員会（三春町）は、遊休農地等を活用して整備した「ファームパークいわえ」を核に、地域住民や地元の小中学生が協力して、田んぼアートの制作や花菖蒲による景観整備、イベントの開催など、地域農業への理解促進や交流人口の創出につながる活動に取り組んでいます。

また、「農業生産部門」に推薦のあった農事組合法人コネクトファーム貝田（国見町）は、ほ場整備を契機に、地域の農業者が協力して法人を設立し、現在は水稲やももなどの生産により地区全体の６割の農地を耕作する担い手として活躍するとともに、棚田を活用した地域振興にも貢献しています。

いずれの推薦団体も、農業を通して地域活性化に素晴らしい成果を挙げており、他地域の模範となるものと評価し、令和７年度豊かなむらづくり顕彰事業の受賞団体として決定いたしました。

特に、布沢集落は、中山間地域に位置する農村で、農業生産条件も厳しいながらも、住民の熱意と創意工夫により、棚田や豊かな自然環境を最大限に生かして農業・農村の発展につなげる取組が豊かで住みよいむらづくり推進への寄与度が大きいと評価し、令和８年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後もむらづくり活動に積極的に取り組まれ、豊かで活力あふれる地域を次世代につなげていただくとともに、本県農林水産業並びに農山漁村の健全な発展に引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。

（審査長　福島県農林水産部長　沖野　浩之）

令和７年度豊かなむらづくり顕彰事業　受賞団体の概要

【　むらづくり部門　】

◆飯坂温泉地酒をつくる会（福島市）

キャッチフレーズ　「オール福島市の酒　飯坂温泉の地酒づくり」

- 「飯坂温泉地酒をつくる会」は、観光地でもある特性を生かして、遊休化が懸念された水田で酒米を生産し、オリジナルの地酒を地元温泉街の旅館で提供するほか、米づくりを通して交流を進めるなど、地域農業への理解促進に取り組んでいる。
- 農業者や旅館組合など地域ぐるみで取り組むとともに、酒米の田植えや稲刈り等には、地元住民のほか、地元小学校の児童、地域で活動するＡＬＴ（外国語指導助手）、福島ユナイテッドＦＣの選手など約６０名が参加するなど、地域や世代を越えた交流に取り組んでいる。
- コロナ禍以降活動が制限される中にあっても、地元酒販店と連携した新酒販売会の実施を始め 、福島地域酒米研究会との連携による新酒お披露目会や日本酒販売会への出店、さらにＳＮＳの積極的な活用により地域内外に広く情報を発信している。
- 製造された純米吟醸「摺上川」は、福島市の代表的な特産品として親しまれており、令和６年度には、当初の２倍の２，０００ 本まで生産量が増加し、そのうち約７５％が飯坂地区で消費及び販売されている。また、飯坂温泉応援キャラクターの「“温泉むすめ” 飯坂真尋」をあしらった限定ラベル商品を販売するなどの工夫を重ねながら、商品はもとより地域のＰＲを行っている。
- 飯坂地区にある神社へ奉納するしめ縄や門松等に使用する神事用の古代米の栽培を引き継ぐなど、地域の伝統文化の継承にも貢献している。

飯坂温泉地酒をつくる会と地域の皆さん

◆布沢集落（二本松市）

キャッチフレーズ　「先人の苦労で拓いたムラを未来へつなぐために」

- 「布沢集落」 は、沢沿いに広がる美しい棚田を後生につなぐため、平成１７年から中山間地域等直接支払による農地保全に取り組み、平成２８年には「布沢の環境を守る会」を設立し、多面的機能支払を活用しながら、集落住民の協働による棚田・集落環境の保全や、集落の文化・史跡などを活用したイベントなど活動を広げながら、集落ぐるみによるむらづくりとむらの活性化に取り組んでいる。
- 平成１７年に集落の担い手が布沢機械利用組合を立ち上げ、高齢者や兼業農家などの営農を支えるとともに、棚田の遊休化を防ぎ、受託面積は、設立時から１．５倍に拡大している。
- 原発事故後の農地除染や令和元年東日本台風による農用地被害調査では、集落の全面協力により早期の営農再開につながったほか、電気柵の設置・管理や景観作物の植栽など環境美化に至るまで、集落住民の理解と協働によりたゆみなく取り組まれている。
- 令和３年に「東和の布沢棚田」８ｈａが棚田地域振興法に基づく指定棚田地域、令和４年に「つなぐ棚田遺産」に認定され、棚田に関連する特産品開発などに弾みがついた。また、「田んぼの学校」の活動支援や田んぼビオトープでの「生き物観察会」、棚田オーナー制度など取組を広げており、令和３年に設立した「天女の会」（布沢集落女性部）が主体となる「布沢棚田の芸術祭」では、集落の歴史に触れるウォークラリーや棚田ライトアップなど文化交流と棚田の魅力向上を図りながら交流人口を増やしている。
- 布沢集落の取組は、周辺集落の課題解決に示唆を与え、令和７年には周辺集落とともに農村型地域運営組織（農村ＲＭＯ）「太田の里地域づくり協議会」の設立につながっている。

布沢集落の皆さん

◆ファームパークいわえ運営委員会（三春町）

キャッチフレーズ　「田んぼアートによる耕作放棄地の解消と賑わいづくり」

- 「ファームパークいわえ運営委員会」は、耕作放棄地の解消と地域住民の憩いの場の創出を目的として平成２１年に整備した「ファームパークいわえ」（約３ha）を核に、地域住民等の共同作業により、田んぼアートや花菖蒲などの植栽による景観整備、花と地域の伝統芸能などを組み合わせたイベントの開催等に取り組んでいる。
- 運営委員会は、地域内の農地保全会、農事組合、老人クラブなどで構成され、行政区からの委託を受けて、ファームパークいわえの運営を行っている。田んぼアートの制作には、地域住民に加え、岩江小学校やＪＡ福島さくら、町議会、さらに専門学校やたむら支援学校の生徒も参加して田植えなどの作業を行っている。また、岩江中学校とは「花と音楽祭」の運営、福島大学の学生とはひまわりの植栽活動を協力して行うなど、他団体とも積極的に連携しながら活動を展開している。
- 運営委員会の活動が、中山間地域等直接支払の集落協定による耕作放棄地対策や農地保全活動の円滑な実施にもつながり、農業生産の維持に結びついている。
- ファームパークいわえには、年間３，０００人が訪れることで地域に新たな活気が生まれるとともに、中山間地域の農業・農村が持つ公益的な価値を住民が改めて認識し、地域全体で支えるという意識の醸成にもつながっている。

ファームパークいわえ運営委員会の皆さん

【　農業生産部門　】

◆農事組合法人コネクトファーム貝田（国見町）

キャッチフレーズ　「貝田の農業を未来につなぐ」

- 「農事組合法人コネクトファーム貝田」は、ほ場整備事業の実施を契機に、農地の安定した受け皿となり、地域農業の維持・発展に貢献することを目的として、平成２９年に地域内の農業者６名により設立された。
- 農地中間管理事業等の活用や、乾燥調製施設等の整備を進めながら、農地の集積を図り、令和７年度は水稲、もも等（計１５．７ha）を生産し、ほ場整備事業の受益面積の約５９％の農地を耕作する重要な担い手となっている。
- 法人の活動を継続できるよう、地域内の若者を従業員として雇用するとともに、若い世代の意見を積極的に取り入れ､営農支援システムや農業用ドローンなどのスマート農業の導入を進め、一層の省力化、効率化を進める計画である。
- 地域内の養鶏場の鶏糞ペレットを肥料として水田に散布しており、地域内資源の有効活用と環境に配慮した農業を実践している。
- 地域内の農家と協力して、用水路、農道等の草刈りなどの作業を行い、農用地の維持管理に努めているほか、貝田・山根地区棚田振興協議会の構成員として、貝田・山根地区の「大木戸の棚田」（指定棚田地域）の保全活動に取り組み、生産した米を「大木戸の棚田産コシヒカリ」として道の駅等で販売するなど、地域活性化に向けた取組にも積極的に参画し、地域農業の維持・振興に大きく貢献している。

農事組合法人コネクトファーム貝田の皆さん